資源循環の必要性

問 建設課 環境係　☎62-9114

近年、私たちの生活においてごみの発生量は高水準で推移しており、それに伴いごみの最終処分場の残余年数が問題となっています。環境省の発表では、2019年時点で生活ごみ（一般廃棄物）の処理場の残余年数は約21年とされています。年数こそ増えているものの、グラフを見ると残りの容量は年々減少していることが分かります。

ごみの排出量を比べると生活ごみと産業廃棄物では10倍もの差がありますが、排出量に対する最終的な埋立処分量を比較すると生活ごみは産業廃棄物の４倍もの量を埋立処分しているのです。埋立量で見てもその差は2倍程度しかありません。言い換えると日本全体で排出されるごみのうち10％にも満たない生活ごみが日本のごみ処理場の３分の１を埋めているということです。

そのため、私たちが日常で排出するごみの資源循環を推進することが非常に重要になってきています。

	一般廃棄物	産業廃棄物
排出量(年間)	4000万t	4億t
リサイクル量	840万t(18%)	2億t(50%)
埋立量	380万t	970万t
埋立量/排出量	**9.5%**	**2.4%**

約４倍！